

(2) 事例報告 一秦野市立南幼稚園における学校関係者評価に携わって一

秦野市教育委員会・教育指導課長 高木 俊樹

①はじめに

各幼稚園における学校関係者評価の実施については、文部科学省から出された平成20年1月31日改訂版「学校評価ガイドブック」、平成20年3月24日「幼稚園における学校評価ガイドライン」あるいは平成21年3月「学校関係者評価を活かしたよりよい学校づくりに向けて」の記載内容に沿って行っていくことにより、具現化することはできる。しかし、日々保育のための準備、実践、点検、計画のサイクルに追われている幼稚園現場において、その内容を読み解き、情報を園の特性に合わせて分析し、園全体で共通認識をもちながら、望ましい学校関係者評価を実施することはかなりの負荷を与えることにもなる。実施のためには、それなりの見識をもった担当者のリーダーシップや、園全体で協議し実行する時間の保証等が必要であり、つまり、これまでの園経営の経験的所作にはなかったノウハウが求められるのである。

本研究における「研修プログラムの作成」は、学校関係者評価の意義を示す啓発性ととも、まさに、この幼稚園において学校関係者評価の実施に係る負荷をより軽減化する目的を持つものである。さらに、学校関係者評価を、現場において無理なくむだなく行うためには、当該自治体の教育委員会の役割も重要になってくるであろう。今回の研究にあたっては、筆者が神奈川県秦野市の教育行政を担当する立場（秦野市教育委員会教育指導課長）でもあることから、本プロジェクトにおける研究協議と並行しながら、秦野市立南幼稚園において教育委員会と連携した学校関係者評価を実施し、研修プログラムの検証を行ってみた。その経過を追いながら、この研修プログラム及び学校関係者評価実施に係る地域の教育委員会の役割を考えてみたい。

②秦野市及び秦野市立南幼稚園について

秦野市は神奈川県の県央西側、新宿から約60km、小田急線で1時間強、横浜から37km、相鉄線、小田急線を使って1時間弱、北側には神奈川県の屋根と呼ばれる丹沢山塊が連なる神奈川県央に、秦野市はある。南側には渋沢丘陵が東西に走り、県下で唯一の典型的な扇状地盆地であり、休日には登山客でにぎわう自然に恵まれたまちである。以前は煙草や落花生の生産が盛んな農業地域だったが、昭和40年代後半頃から大都市へのアプローチの便利さによる住宅化や企業の立地が進み、急激に人口が増加し、現在人口17万人である。その中で小学校13校、中学校9校、それに各小学校の近隣に設置されている市立幼稚園が14園ある。（ちなみに私立幼稚園は3園）しかしここ数年、行政においても幼稚園のあり方、存在意義を論議される場が多い。そのようななかで、平成18年度、19年度には文部科学省委嘱「就学前教育と小学校の連携調査研究」を2地区（西・大根）で研究を受け発表したり（現在も市内別の2地区において県や市の連携調査研究を継続中）、14幼稚園のうち4園が認定こども園として幼保一体化園となったりと、動きを示している。

南幼稚園は、小田急線秦野駅から南側一帯を園区としており、年少年長の2年保育（年少3クラス年長2クラス）である。渋沢丘陵に近く自然観察ポイントが多く散在する。また、湧水

群が近隣にあり、南幼稚園の敷地内にも湧水箇所がある。その環境を活かす観点により、「豊かに表現できる子」「友だちと仲良く遊ぶ子」「よく考えやりぬく子」を本年度の教育目標とし、めぐまれた環境の中で自然とふれあう体験を中心に豊かな感性を育てる教育活動の研究に取り組んでいる。(資料3-2-①グランドデザイン)

本園が学校評価研究に取り組むことになったのは、平成21年度の幼稚園教育課程等神奈川県研究協議会の発表園に指定されたことに始まる。7月に、第1回目の発表として、年度前半に研究及び実践を重ねた「自己評価のあり方」について発表を行った。次回1月には第2回目の発表が予定されており、ここでは学校関係者評価の実践が発表の中心となる。

秦野市の14園すべてにおいて言えることだが、「自己評価」や「保護者アンケート」の実施までは熱心に取り組んでいるものの、学校関係者評価について組織立てて実施している園はこれまでにない。

南幼稚園の職員においても、学校関係者評価についての知識が全くないところからのスタートであり、7、8月頃の研究実践に対する不安と焦燥は大きいものがあった。「何をどうすればいいのかかわからない。不安である。」そのような状況の中で、秦野市教育委員会教育指導課も帯同して実践研究に取り組むことになった。

③ 学校関係者評価研究及び実践の経緯について

1) 10月14日の南幼稚園研究協議

「学校関係者評価」の最初の学習会と言えるような研究会であった。筆者から本委員会に係る次の資料を活用し説明を行う。

- ① 「幼稚園における学校評価実施のためのガイドブック」(P2～P21の写し)
- ② DVD「どんなところ？幼稚園」及びパワーポイント配付資料
- ③ DVD「学校評価とは？」及びパワーポイント配付資料

今までの南幼稚園における学校評価研究の推移を確認した後、上記①ガイドブックを使い、簡潔に学校関係者評価の意味及び具体的な南幼稚園における学校評価委員の位置づけについて説明を行う。そして、②のDVD視聴。限られた時間でもあったため「1 幼稚園の役割(1)～(4)」のみ紹介し、残りの部分は配付資料で内容を確認してもらおう。続いて、③DVD「学校評価とは？」を全視聴。実は、場合によっては、このDVDも職員の雰囲気次第では途中で切り、資料でカバーすることも考えていたが、あまりに参加者が熱心に視聴し、またうなずきや「は～」「なるほど」といったリアクションが多かったことから最後まで視聴する。職員の感想については概ね『丁寧な編集で、わかりやすい。』『学校関係者評価の内容がとてもよくわかった。すぐに使わせていただきたい』というものであった。

もちろん、このDVD(「学校評価とは?」)は学校関係者評価委員の研修プログラムとしての目的を持つものだが、学校関係者評価の概念が幼稚園の職員の知識として定着していない秦野市の現状においては、研修教材としての意味も大きいものがあった。その後は、南幼稚園にとってだれに学校関係者評価を依頼することが適切であるか、またその評価委員さんにどのよ

うな形で今後幼稚園理解のために働きかけていくことが必要かという話題となった。

この研究会において幼稚園長や職員より出された問題点・疑問点については次の3点に集約することができる。

(ア)学校関係者評価委員に提出する「自己評価」の内容について

(イ)「自己評価」の数値化についての考え方及び提示方法

(ウ)日常の、公開している保育、園行事、園見学の際に保護者や地域の方からアンケート用紙を通していただいている「意見・感想」についての取扱い方

10月16日、南幼稚園長より、学校評価委員として次の4名にお願いすることを決め、ご本人の承諾をいただいた旨の連絡が入る。

○秦野市立南小学校長（隣接小学校長）

○秦野市南地区自治会連合会長（地域住民代表）

○秦野市南地区民生委員児童委員協議会長（地域福祉関係者）

○秦野市立南幼稚園PTA会長（保護者代表）

2) 第1回学校関係者評価委員会

10月21日(水)に実施 この日は南中学校区子どもを育む協議会（※）が、午前中より南幼稚園で開催される日であった。4名の評価委員のメンバーはこの協議会のメンバーでもある。DVD「どんなところ？幼稚園」「『学校評価』とは？」の2つの教材を活用した委員会である。

【第1回学校関係者評価委員会】

日 程：9：30～10：15 保育参観・施設参観

(10：15～10：45 子どもを育む協議会懇談)

10：50～11：50 学校関係者評価委員会

場 所：南幼稚園会議室

出席者：学校関係者評価委員4名 教育委員会教育指導課指導主事 南幼稚園園長

学校評価担当教諭 傍聴希望により南中学校校長及び教務担当総括教諭が参加

次 第 ○幼稚園長挨拶

○幼稚園教育及び運営についての説明（「どんなところ？幼稚園」資料説明）

○学校関係者評価委員会の目的と活動予定についての説明

○DVD「学校評価とは？」ビデオ視聴

○質疑応答・意見交流

①DVD「どんなところ？幼稚園」の扱い

「どんなところ？幼稚園」についてはパワーポイント資料を配付し、園長挨拶の中の学校評価説明の際に用いた。この4名のメンバーは子どもを育む協議会のメンバーでもあり、園・学校現場のことについて一定程度の知識と意見反映を行っているメンバーでもあることから、視聴ではなく資料としての提示である。

②DVD「『学校評価』とは？」の扱い

パワーポイント資料を配布するとともに全編視聴する。評価委員を含め参加者全員注意深く視聴していた。終わった後の感想としては、「どのような目的で何をすればいいのかがよくわかった。」「より幼稚園のことを知る必要を感じた。何か幼稚園の様子がわかるものがあれば日頃からいただきたい。」「学校評価の委員としての責任を感じた。努力したい。」

特に、委員の中で、学校教育の経験者でもない地域代表の自治会連合会長の委員が、このDVDを絶賛し、「とてもよくわかった」という感想を出されたということは特記すべきことであらう。

※「中学校区子どもを育む協議会」について

教育委員会主催により秦野市中学校区9地区において組織されている、行政、地域住民、保護者、学校関係者による幼児・児童・生徒の教育についての協議機関。中学校区にある幼小中学校の園長、校長、自治会代表、民生委員、青少年指導員・相談員、各PTA代表、社会教育代表等により構成される。地域の特色を活かした校種間の連携した取り組みについて協議し活動を行うもので、これまで「あいさつ運動」「清掃ボランティア活動」「異年齢集団活動」等を行ってきている。

3) 11月10日の南幼稚園研究協議

前回の研究会で課題となっていた3点のことについて協議し以下の確認を行う。

- 12月に実施を予定している幼稚園としての自己評価内容すべてを、学校評価委員さんに提示するのではなく、特に今年度「ランドデザイン」(「資料No.1」)に示されている「重点目標 豊かな感性を育てる教育活動の実践」の中での「自然体験を通して充実感が味わえる教育活動の展開」を中心にした内容について評価を依頼すること
- 数値目標は、その評価項目内容により評価としてなじむものとなじまないものがあると思われるが、可能な限り設定したものについてその結果を記すようにすること
- 日頃からアンケートなどでいただいている保育や園行事についての感想や意見については項目として表の中に加え、資料化すること
- 重点目標を中心にした自己評価欄、保護者指摘内容欄、学校関係者評価記述欄、段階別総合評価欄を盛り込んだ様式を作成し学校評価委員に依頼すること

4) 第2回学校関係者評価委員会

【第2回学校関係者評価委員会】

日 時：平成21年12月22日(火) 16:00~17:00

場 所：南幼稚園会議室

参加者：学校関係者評価委員 幼稚園長 幼稚園職員全員
教育委員会教育指導課指導主事

次 第：○幼稚園長挨拶

○自己紹介

○自己評価説明

○意見交流

○学校関係者評価欄への記入依頼

自己評価内容が記載された学校関係者評価委員に依頼する評価シートを配布し、それをもとに重点目標に絞った内容を説明するとともに学校関係者評価シートへの記載を依頼した。なお、第2回委員会を開くまでに11月末に委員に「園だより」や「クラスだより」を送付し、12月4日には全保護者に園生活にかかわるアンケートを実施、その結果について12月14日に委員に報告している。

この委員会後、評価シートの評価委員による記載内容を整理し(資料3-2-②)、それをも

とに1月以降「総括評価」に取り組み、次年度園運営への反映を検討する予定である。

④ 秦野市立幼稚園における「学校関係者評価」実施に向けての4つの課題及びそれに対する南幼稚園の取り組みについて

秦野市立南幼稚園の当初の悩みや、市内の他の幼稚園長の話や、学校関係者評価を実施するに際しては、意識としてあるいは準備企画を行う立場として、次の4つの「課題」があることを感じた。その課題を示し、それに対して南幼稚園がどのように対処してきたか、あるいは対処しているかを、整理してみたい。

1) 「学校関係者評価」の位置づけについて

→そもそも実施する意義は何か。目的は何か。

この問いが未だに出ることについては、行政の立場として大きく責任を感じるころであるが、これまでも県や市の研修会や、ガイドライン等の資料の配付を通して、その目的の概要については理念として捉えている職員は多い。しかし、本音を言えば、(言葉には出さないものの) 自己評価の充実を図ってきた今、「理念はわかるがそこまでやる必要があるのか」という意識があることは否定できない。その意識は、具体的にどのようにやっていいのかわからない、不透明である、という不安がもたらしているとも言えよう。

このことについては、南幼稚園では、まず園内研究会で「幼稚園における学校評価ガイドライン」をみんなで細かく学習し、意義を捉えるとともに見通しをもてるようにしている。さらに、そこで捉えた知識を定着し具体イメージをもつことができるようにしたのがDVD資料「学校評価」とは?」である。「Q&A」も交えた編集がなじみやすく、幼稚園の先生方にとって納得と安心に導くものであった。

2) 「学校関係者評価委員」の人選について

→人数及び人選どうすればいいのか

「学校評価ガイドライン」や「幼稚園における学校評価ガイドライン」に例示されてはいても、実際には、どのような人選がいいのか、特に前例がないこともあり悩んでいる姿がある。特に「こういう立場の人を加えることが望ましい」とあるガイドラインの諸々の記述に、その方々全員に「依頼せねばならないのか」という極端な解釈により、園としての過度の負担感を感じている実態もある。そのため人数も10人程度は「揃えねばならない」という意識をもっている園長も多い。

このことについて南幼稚園では、DVD資料「学校評価」とは?」とともに「幼稚園における学校関係者評価実施のためのガイドブック」の記載説明が有効であった。「5~10人」という例示人数でほっとしたようだ。また、筆者のアドバイスとして「4, 5人あたりがいいのでは。場合によっては3人でも。」という言葉かけも安心をもたらしたようである。(もちろんその言葉は、本委員会に参加するなかでの協議を経て、筆者自身が自信をもって語れるようになったものである。)

教育委員会のアドバイスが必要な場面のひとつである。

3) 「学校関係者評価委員」に依頼する内容について

→どのような内容を、どのように依頼すればいいのか。

どのように自己評価を整理し、また、どのように日頃の保育の様子を伝え、必要な情報を提供するのか。やはり具体的なイメージがないために困っている状況がある。何よりも、学校評価委員さんを選任し、依頼することはできても、委員に学校関係者評価についての説明や依頼する内容をどのように話していいかわからない、という声は全園長職員よりあがった。

南幼稚園の実施にあたっては、DVD資料「学校評価」とは?」は、これらの不安を解消する大変タイムリーな教材であった。20分という適切な長さで、音声がつき、説明とともに「Q&A」を取り入れた編集が大変効果的であった。また、DVD資料「どんなところ?幼稚園」も幼稚園のメンバーにとっては補完的な意味において安心を与える教材であった。

4名の学校関係者評価委員さんにとって、DVD資料「学校評価」とは?」は、立場を自覚する上でも、やるべきことを認識する上でも有効であったことは、委員会の時の視聴態度や終わった際の感想を見れば明らかである。さらに、教育現場に関わった経験のない地域代表の自治会長が絶賛したことは、この資料のあり方を考える上で大きな意味を持つものである。

4)「学校関係者評価委員」に報告する資料・様式シートについて

→実施にあたっての様式をどのようにすべきなのか

→委員さんに報告すべき情報

南幼稚園は、自己評価等提供すべき情報やそれに基づくシート様式について、「学校評価ガイドライン」のほか、DVD資料「学校評価」とは?」や「幼稚園における学校関係者評価実施のためのガイドブック」を参考にしつつ、教育委員会と検討及び確認を重ねた上でシート内容を決定した。

このことについては、秦野市の特性を考慮しつつ、教育委員会のリーダーシップによる、全市の幼稚園共通の弾力性のあるフォーマット作成を考えるべきであろう。

⑤終わりに 一学校関係者評価を有効に推進するための教育委員会の役割一

このプログラムの存在、教材の存在が、学校関係者評価を実施する幼稚園当事者にとって、どれだけサポート材となったか、推進力を与えられたか、ということ秦野市立南幼稚園の評価に関わる中で、筆者自身、実感として感じる事ができた。その教材によるバックアップのもと、自信をもって学校関係者評価に臨む幼稚園職員の姿勢は、委員に対してその役割と使命を伝える上で大きな意味があったのである。

また同時に、公立幼稚園の学校関係者評価実施にあたっては、前項で述べているように、当該自治体の教育委員会（指導担当）との連携した取り組みが強く必要であることも筆者自身確認とともに自覚することができた。地域の特性に応じた評価対象の精選、学校関係者評価委員に求める内容、自己評価及び学校関係者評価を受けた有機的な総括評価、次年度園運営への反映等そのあり方を探る上で、各幼稚園主体の取り組みのもと、常に具体的な指示、サポートができる体制を準備すべきである。学校関係者評価を行うことにより、「評価するための評価」に追われ日常の保育活動に支障を来したり、過度な負担を幼稚園職員にかけたりする状況にしてはならない。そのためにも、各園において統一できる情報、様式については、委員会主体で整理しすぐに提供できるような環境設定が必要である。その意味においても、今回の南幼稚園の評価実践により、本研修プログラムの2種類の教材の存在は大きな有効性を持つものと判断

できる。今後、幼稚園だけではなく公立小中学校も含めて、文部科学省等より出されるガイドブックや今回の教材のような実効性のある情報や資料を、それぞれの現場により定着するための地域実態に応じた施策や手立てを講じる使命が、各教育委員会には求められている。

今回偶然、筆者にとって本委員会への参加依頼を受けた時期と、教育指導課として秦野市立南幼稚園から学校関係者評価研究についての相談を受けた時期が一致した。それにより、筆者にとっては南幼稚園を研修プログラムのモデル園としての実践に結びつけることができ、また幼稚園にとっては課題解決のための資料や教材を有効に活用する機会を得ることができた。何と幸運だったかと思っている。南幼稚園関係者ともども、本委員会による情報提供に心より感謝したい。

(高木俊樹)

秦野市立南幼稚園 グランドデザイン

子どもの姿

- ・愛情を受けて育っている。
- ・素直な気持ちをもっている。
- ・生き物に興味がある。
- ・体を動かして遊ぶことが好きである。
- ・帰宅後は、室内でゲームなどをして遊ぶことが多く、自然に触れて遊ぶ経験は少ない。

めざす子どもの姿

- ・体を動かして元気に遊ぶ子
- ・自然の中でのびのび遊ぶ子
- ・友達と仲よく遊ぶ子
- ・遊びに熱中する子
- ・感動の心をもつ子
- ・人の話が聞ける子
- ・目的をもって行動する子

環境資源

- ・園舎は木のぬくもりが感じられる。
- ・小学校と隣接している。
- ・湧水群があり、園庭にも湧水池がある。
- ・徒歩圏内に自然観察ポイントがいくつかある。

秦野市教育委員会教育目標

- ◎生命や人権を尊重し、平和を愛する豊かな心をもつ人
- ◎人や自然との共生・共存を大切にする人
- ◎心身ともに健康で希望を持ち、夢の実現に向けてたくましく生きる人
- ◎郷土の歴史や文化を尊重し、新しい文化を創造する人
- ◎公共の精神を尊ぶとともに、自ら学び、考え、行動する人



平成21年度南幼稚園教育目標

1. 豊かに表現できる子
2. 友達と仲よく遊ぶ子
3. よく考えやりぬく子

これまでの本園における課題

- ・地域の自然資源を有効に活用する場の設定
- ・園内の環境整備推進
- ・教師の異動による幼稚園運営に対する共通理解の温度差の解消 (平成20年度南幼稚園学校評価より)

重点目標 豊かな感性を育てる教育活動の実践

自然体験を通して充実感が味わえる教育活動の展開

具体的方策

1. 教育課程の編成・実施
2. 学年間の共通理解と学年運営
3. 教材開発
4. 環境の工夫と構成
5. 心の教育の充実
6. 保護者に見える「特色ある教育活動」の展開

園内研究

幼児の豊かな生活づくりをめざして

～自然とふれあう体験をとおして～

- ・地域の自然にふれる
- ・湧水を使って遊ぶ
- ・自然教室を通して関心を高める (蛭・魚など)
- ・畑や園で野菜などの栽培をする

目標達成に向けての職員の体制づくり

具体的方策

1. 園長・教頭を中心とした職員の協体制の構築
2. 幼児理解
3. 地域の環境資源の把握
4. 教材開発と指導法の工夫
5. 課題への積極的な取り組みと組織的な対応
6. 園内研究の推進
7. 保護者との連携
8. 自己評価の実施
9. 幼・保・小・中・高との連携と交流

保護者
アンケート

学校評価・公表

南中学校区子どもを育む
協議会・地域協力者
秦野市教育委員会

(3) 私立幼稚園における学校評価の実施における研究機構の役割

財全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研究研修副委員長 安達 譲

私立幼稚園の学校評価への取り組みの現状と課題

学校教育法の改正により、自己評価並びに結果の公表が義務づけられ、私立幼稚園においても平成21年8月の全国調査では83.1%の園が自己評価を実施しているが、学校関係者評価の実施は45%にとどまっている。未実施の主な理由として、代表的なものは、三つあり、一つ目は努力義務であるということ。二つ目は「私立幼稚園は入園前に説明会等により様々な情報を開示し、保護者に園の教育理念や教育内容を理解してもらった上で入園してもらっている。」つまり、既に保護者から選ばれている（評価）されているので、必要性を感じないという理由。そして三つ目は、学校関係者評価の具体的な実施方法が分からないというものである。中でも二つ目の「既に保護者から評価されている」という意見は根強いが、保護者の評価と各幼稚園の保育の質が必ずしも一致しないことは明らかで、保護者の評価のみを重視するが故に、漢字が書ける、逆立ちができるという「〇〇できる」という小学校以降の学校教育の知識・技能を獲得することを目的とした本来の幼児教育とはかけ離れた教育をよしとする恐れがある。又、全幼稚園児の80%が私立幼稚園に通うということは、独善的な自己評価で完結するのではなく、学校関係者評価を含めた学校評価により客観性を担保しながら、継続的な質の向上を公教育として求められているということであると考えられる。

財全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の果たす役割

これらの現状を踏まえて、財全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が果たす役割を考えると、情報の発信（学校評価の意義の周知、学校評価の具体的な方法やコンテンツの提供等）が重要と思われる。例えば、学校評価に取り組むことの意義を全国の取り組み事例を元に周知していく。あるいは、学校関係者評価を具体的に進めるに当たって、学校関係者評価委員会で「どのような内容を話し合うか」、「委員の構成は？」の具体的な進め方等である。特に、今回の研究で開発された「どんなところ？幼稚園」と「学校評価とは」のDVDとハンドブックは、保護者や地域住民等の関係者に幼児教育を正しく理解してもらうための、ある意味の「物差し」として、あるいは学校関係者評価委員会におけるオリエンテーションのコンテンツとして大変有用なものであると言える。今後さらに、各団体や各園毎に内容等に改良を加えながら全国の私立幼稚園においても活用されるよう幼児教育研究機構として、全国各地の研究大会、冊子等に情報発信を続け、まずは必要最小限の形であっても全園で実施されるように働きかけていきたい。

又、伝えると共に全国各地での取り組みを国にフィードバックすることにより、これまで幼稚園教育において培ってきた、子どもの記録等を元に振り返るといった良さを生かした、シンプル且つ保育の質の向上に繋がる学校評価システムの構築に寄与していきたい。

(安達 譲)

おわりに

本研究は、平成21年度に文部科学省から委託を受け、幼稚園における学校関係者評価委員の研修プログラムを作成し検証することを目的として行われた。幼児教育、学校評価、教育評価、発達心理学等を専門とする研究者、教育委員会指導主事、幼稚園園長など13人が集まり、各々の専門性を活かしながらチームで学校関係者評価委員の研修プログラムを開発し、その有効性を検討した実証的研究である。

近年、園・学校の自主性・自律性の確立、その裁量権の拡大や経営責任の明確化、保護者や地域住民に対する説明責任が問われるなかで、園・学校の自己点検・自己評価とその結果の公表が義務となり、また、学校関係者評価を行い、公表に務めることが求められるようになった。幼稚園の現場では、自己点検・自己評価の一環としての学校評価あるいは学校関係者評価の意義や目的は理解されつつあるが、その実施率は依然として低い状況がみられる。このようななか、園が学校評価に主体的・自律的に進むためには、学校評価をよりよく理解し、実施するための足場となるプログラムや教材の作成および実施に向けての支援が必要である。

自己評価の実施率は近年、高まってはきたものの、学校関係者評価については、委員の選出方法から実施方法まで、現場は模索している状況だといえる。学校関係者評価が自己評価の透明性、客観性を高めるものとなるためには、園の教職員が学校関係者評価の意義や目的、項目の設定を含む実施方法について理解することはもとより、学校関係者評価委員が幼稚園や幼稚園教育、学校評価などについて理解した上で、評価を行う必要がある。本研究はそれを可能にするための研修プログラムの開発とその有効性の検証を目指した。その際、その通りにしなければならぬ柔軟性を欠くプログラムではなく、教材には基本的な内容を含むようにし、実施する際に園独自の内容を付加したり、評価委員会の持ち方などを工夫できるようなものが求められるだろう。

(1) プログラムの開発と有効性について

本研究では、まず、プログラム（内容と順序を含む）を作成した。そこでの領域は「幼稚園」と「学校評価」に関する内容を厳選し、初心者でもわかりやすいDVDを作成した。また、1回限りの視聴による学びを補うために、学校関係者評価委員が持ち帰るためのハンドブックも作成した。シーケンスは「幼稚園」「学校評価」の領域の順とした。園の教員がこの教材を用いて、学校評価を実施するためのガイドブックも作成した。学校関係者評価を実施する担当者に対して説明会を実施した後、3つの地域、合計76園から協力を得て、そのうちの半数にプログラムを用いて学校関係者評価を実施し、その前後、中間でプログラムの有効性を測定した。具体的には、学校関係者が幼稚園が目指そうとしていることを理解し、応援団として機能することができるための条件として、幼稚園や学校評価についての認識、幼稚園や教職員への親近感等の感情、幼稚園とのよい関係構築への動機づけなどを想定し、そららの変化をアンケートにより測定した。主な結果は以下の通りである。

○学校関係者評価委員の幼稚園、子ども、子どもの育ちへの関心は高く、幼稚園の役に立つこ

との意義の認識も高い。

○本研究において作成された学校関係者評価研修プログラムを経験することにより、学校関係者評価委員の幼稚園・幼稚園教育の理解度、学校関係者評価の理解度が上がり、学校関係者評価に関わる不安感や負担感を軽減し、幼稚園や幼児に対するポジティブな感情、幼稚園に積極的にかかわっていかうという意欲が高まることが示唆された。

○プログラムを活用せずに、従来通りの方法で行うノンプログラム群（N群）の学校関係者評価委員でも、最終アンケート時には幼稚園・幼稚園教育に関する理解、学校関係者評価に関する理解が上がっていたことから、各園が独自に工夫して行なっている学校関係者評価も有効なものであることが考えられるが、幼稚園教育に関して知識をもっている学校関係者評価委員に関しては、系統だてられた内容の本研修プログラムが有効であることが示された。

これらの結果等から研修の有効性が確かめられたといえる。しかし、学校関係者評価委員のなかにもいろいろな特性をもつ人がおり、どのような特性の学校関係者評価委員にも効果をあげるためには、あらゆる人に共通の内容ではなく、園の実情に応じた、あるいは、個々の評価委員の特性に対応しうる研修プログラムが求められるだろう。また、様々な要素をもつプログラムを個々の園に応じて、または、選任された委員の特性に応じて特別に構成できるようなプログラムも必要である。

幼稚園を取り巻く人々に、幼稚園と密にかかわるきっかけを与え、幼稚園についてよく知ってもらえる学校関係者評価は、幼稚園にとって"応援団"を増やしていくのに、非常に意義のある教育的営みとなろう。

(2) 教材の今後の改善に向けて

教材の検証は、学校関係者評価委員および学校関係者評価の実施者に対して行った。

学校関係者評価委員の回答からは、以下のような内容のご意見があった。

〔主な肯定的な意見〕

○ガイドブック

- ・1年の流れに沿っていてとてもわかりやすい
- ・今後も参考・活用していきたい

○幼稚園のDVD

- ・大変、わかりやすい
- ・幼稚園教育が義務教育およびその後の教育の基礎を培うことがわかりやすく説明されていた
- ・説明の早さがちょうどよい
- ・今後も参考・活用していきたい

○幼稚園のハンドブック

- ・DVDの補足説明が書いてあるので理解度が増す
- ・図が入っていたことがわかりやすかった

- ・幼稚園についてあまり知らない人にもわかりやすいと思う
- ・DVDを最後まで見るができなかった人に対してもハンドブックを渡すことで内容を補える
- ・今後も活用していきたい

○学校評価のDVD

- ・説明や補足が丁寧でわかりやすい
- ・学校評価をする理由がわかり、勉強になった
- ・今後も活用していきたい
- ・説明の早さがちょうどよい
- ・学校関係者評価委員の仕事内容がわかりやすかった

○学校評価のハンドブック

- ・説明や補足が丁寧でわかりやすかった
- ・学校評価をする理由が分かり勉強になった
- ・項目ごとに内容がわかりやすく整理されている
- ・PDCA説明や補足が丁寧でわかりやすい

【主な課題の指摘】

○ガイドブック

- ・ガイドラインのように進めることは難しいと感じている
- ・配布する資料の例が具体的にになっていたが、戸惑いも少なくないと思う

○幼稚園のDVD

- ・「幼稚園は学校です」というくだりは「保育所」との比較があって初めて生きてくる
- ・動画を入れたほうがわかりやすい
- ・説明の早さが遅い
- ・音声聞き取りにくかった
- ・時間が長く感じた

○幼稚園のハンドブック

- ・さらに簡素化したハンドブックがほしい
- ・言葉を漢字に変換してあったほうがわかりやすい
- ・保育者がどのような援助をしているかの事例があったほうがよかった

○学校評価のDVD

- ・文章だけでは物足りない
- ・動画を入れたほうがよい
- ・時間が長く感じた

○学校評価のハンドブック

- ・文字が多かったり、小さかったりするために、わかりにくかった
- ・PDCAの順番に違和感があった

本研究においては、幼稚園における学校関係者評価委員の研修プログラムの作成および検証を目的としたが、その過程において、プロジェクトのメンバーはもとより、様々な立場の者が学び合うことができた。

本研究では、学校関係者評価委員の研修プログラムの有効性が検証されたといえるが、今後、さらに、各園の実情を踏まえて加工しやすいような、より質の高い柔軟なプログラムへと改善されていくことが必要であろう。そして、そのプログラムが学校関係者評価委員の学びはもとより、プログラムを加工する過程で教員にも学びをもたらすだろう。

最後に、お忙しい中、研究にご協力いただく園と本プロジェクトとの関係をきめ細やかに調整してくださいました教育委員会指導主事の内田先生、阪本先生、研究にご協力いただきました学校関係者評価実施園の先生方、学校関係者評価委員の皆様、ありがとうございました。また、本研究の推進にご尽力いただきましたプロジェクトチームの先生方、研究員の丹羽さん、DVDの作成にご協力くださいました嘉村さん、細かな作業をお手伝いいただきました東京学芸大学大学院生の皆様に心から感謝の意を表します。

平成22年3月

岩立 京子

学校関係者評価委員の研修に係る調査研究プロジェクト

プロジェクト代表者 鷺山 恭彦（東京学芸大学・学長）

プロジェクトリーダー 岩立 京子（東京学芸大学・教授）

<プロジェクトメンバー・報告書作成者>

安達 譲（財全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 研究研修副委員長、
大阪せんりひじり幼稚園・園長）

岡上 直子（練馬区立光が丘さくら幼稚園・園長）

神長美津子（東京成徳大学・教授）

福元真由美（東京学芸大学・准教授）

高木 俊樹（秦野市教育委員会・教育指導課長）

高梨 珪子（東京未来大学・教授）

都築 圭子（目黒区立ひがしやま幼稚園・園長）

永井 弘美（栃木県幼児教育センター・副主幹）

葉養 正明（国立教育政策研究所・教育政策・評価研究部部長）

岸 学（東京学芸大学・教授）

松本 純子（東京成徳短期大学・教授）

四ツ釜雅彦（社全埼玉私立幼稚園連合会・教育研究委員長、
菖蒲幼稚園・園長）

<インタビュー調査協力者>

佐賀女子短期大学付属ふたば幼稚園・保育園園長 森田喜久也

奈良県奈良市平城幼稚園園長 山本 陽子

静岡県豊田幼稚園園長 宮下友美恵

<事例執筆者>

埼玉県菖蒲幼稚園園長 四ツ釜雅彦

佐賀県佐賀市嘉瀬幼稚園園長 肥高千恵子

奈良県奈良市佐保幼稚園園長 中西 由子

<研究協力>

佐賀市教育委員会指導主事 内田 真弓

奈良市教育委員会指導主事 阪本さゆり

財全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・研究研修委員長 東重 満

<専門研究員>

丹羽さかの（東京女子大学・非常勤講師）

<DVD作成協力者>

嘉村 友作（東京学芸大学教育実践総合センター・研究員）

平成21年度 文部科学省委託 「学校の第三者評価の評価手法等に関する調査研究」
B-1 「学校関係者評価委員の研修に係る調査研究」

「幼稚園における学校関係者評価委員の 研修プログラムの作成及び検証」報告書

2010年3月 発行

プロジェクト代表 東京学芸大学学長 鷺山 恭彦
プロジェクトリーダー 東京学芸大学教授 岩立 京子

連絡先 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学 教育学講座 幼児教育学分野
Tel:042-329-7382 Fax:042-329-7382

印刷 ㈲二葉謄社